

## 西大寺旧境内の調査（平城第404次調査） 現場一般公開 資料

独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 都城発掘調査部

## 1. 調査概要

本調査は、マンション建設に伴う事前調査で、南北約107m、東西約59m、L字形の調査区を設定し、2回に分けて調査する予定です（発掘予定面積約1762㎡）。対象地は西大寺旧境内北東部から平城京北辺坊にかけての地域です。今回の調査はその第1次にあたり、発掘面積は約711㎡です（図1）。5月24日より重機掘削を開始し、現在も調査を継続中です。本調査終了後、北側（約1051㎡）を継続して調査する予定です。

今回の調査地は、平城京右京一条三坊八坪にあたり、西大寺創建段階の<sup>じきどう</sup>食堂院に推定されています。これまで食堂院に関連する遺構として、食堂と思われる建物（奈良市教育委員会西大寺旧境内第12次調査、1998年。以下、市12次調査と略称）、西三坊坊間東小路西側溝、南北に延びる埋甕遺構、凝灰岩列（市15次調査、2002年）などが検出されています。今回の調査区はこれらの既調査区に挟まれる地であり、食堂院に伴う遺構の検出が期待されました。

## 2. 西大寺について

西大寺は、764年（天平宝字8）孝謙太上天皇（後の称徳天皇）によって発願された寺院で、寺域は平城京右京に三十一町を占めていたとされます。創建当時の西大寺伽藍は、「西大寺資財流記帳」（以下「資財帳」）より、薬師金堂・弥勒金堂からなる金堂院を中心とし、東西両塔、十一面堂院、西南角院、東南角院、四王院、小塔院、食堂院、馬屋房、政所院、正倉院などで構成されたことがわかります。これら諸堂の配置は、後世に描かれた絵図などをもとに考証されており（図2）、食堂院は、伽藍の北東隅部に位置したと推定されています。

平安時代に入ると、西大寺は徐々に衰退していきます。962年（応和2）には、台風で食堂が倒壊します。その後食堂は再建されたようで、平安時代末期の境内には、食堂、四王堂、塔一基のみが残り、食堂にはかつて弥勒金堂に安置されていた仏像が移され、弥勒金堂としての機能を継承したと考えられます。

1235年（文暦2）、西大寺に入った<sup>えいそん</sup>叡尊は、伽藍中枢部を復興します。食堂は1307年（徳治2）に焼失し、以後この地域は宅地や田畠として利用されたと考えられます。

現在の西大寺は、鎌倉期に再興された伽藍を基本としています。

## 3. 検出した主な遺構

## ① 南北棟礎石建物 SB01

調査区西端で検出しました。礎石建ちの南北棟の建物で、桁行7間以上、柱間約3m（10尺）、梁行は身舎約5.4m（17尺）、東庇の出約3m（10尺）。南北両妻柱および西庇列は確認しておらず、調査区外へ続くと見られます。礎石据付掘形は一辺約1mの隅丸方形で、坪掘り状に地業をおこなっています。

## ② 埋甕遺構 SX02

調査区東部で埋甕据付痕跡を合計 13 基確認しました。各埋甕間は約 1.5m で、東西に 4 基並ぶ列を南北方向に 4 列検出しました。うち 3 基は、攪乱により確認できませんでした。さらに南に続く可能性があります。今回の調査では中世以降の攪乱により確認できませんでした。この埋甕遺構は、市 15 次調査でも確認されており、それらとあわせると南北に少なくとも 20 列、80 基以上の甕が据えられていたと考えられます。

## ③ 南北溝 SD03

調査区中央部で検出した南北溝で、瓦・土器片を多量に含んでいます。溝の東肩には、凝灰岩が断続的に並びます。凝灰岩を据えるための裏込め土を検出していますが、凝灰岩は残存状況も悪く、配列に乱れがあり、原位置を保っていない可能性があります。凝灰岩列は市 15 次調査でも検出されています。

## ④ 東西溝 SD04

調査区東側南端で検出した溝。砂質の埋土に細かい土器片と炭を含みます。溝幅は約 1.2m。

## ⑤ 南北溝 SD05

調査区東端で検出した南北溝。西肩のみ検出しました。埋土の状況から、少なくとも 2 時期に分かれます。奈良市第 15 次調査でも確認されており、南は調査区外へ続きます。寺域東端を限る区画施設にともなう遺構の可能性があります。

## ⑥ 掘立柱穴列 SX06

調査区中央部南寄りで検出した掘立柱穴列。約 2.2m 間隔で 4 基検出しました。掘形は一辺 60~80cm。ほぼ東西方向に並びますが、若干東で南に振れています。

## ⑦ 掘立柱穴列 SX07

SX06 の南で検出した掘立柱穴列。東西方向に約 2.4m 間隔で 3 基確認しました。掘形は隅丸方形で、一辺約 70cm。

## 4. 出土遺物

遺構検出面を覆う遺物包含層より、多量の遺物が出土しています。土器は、奈良時代から平安時代前期のものが中心で、土師器、須恵器、施釉陶器なども出土しています。特に、調査区西側では製塩土器がまとまって出土しました。奈良二彩の盤や鉢も比較的多くみつかっています。その他、奈良時代後半の西大寺所用の軒瓦や、凝灰岩、金属製品なども出土しています。

## 5. まとめ

(1) 食堂院を構成する中心的建物の一つを検出しました。

市 12 次調査で検出された建物が食堂院の中軸に配された食堂であるとする、今回検出した SB01 は、この中軸線上に位置します。この配置、建物規模、「資財帳」の記載などを考えあわせると、食堂院を構成する中心的な建物の一つであると考えられます。食堂院の建物配置を検討する大きな手がかりとなるでしょう。

(2) 埋甕遺構を検出しました。

市 15 次調査と合わせると、80 基以上の甕が整然と並んでいたと考えられ、古代に大規模な貯蔵施設が存在していたことが判明しました。



図1. 調査位置図

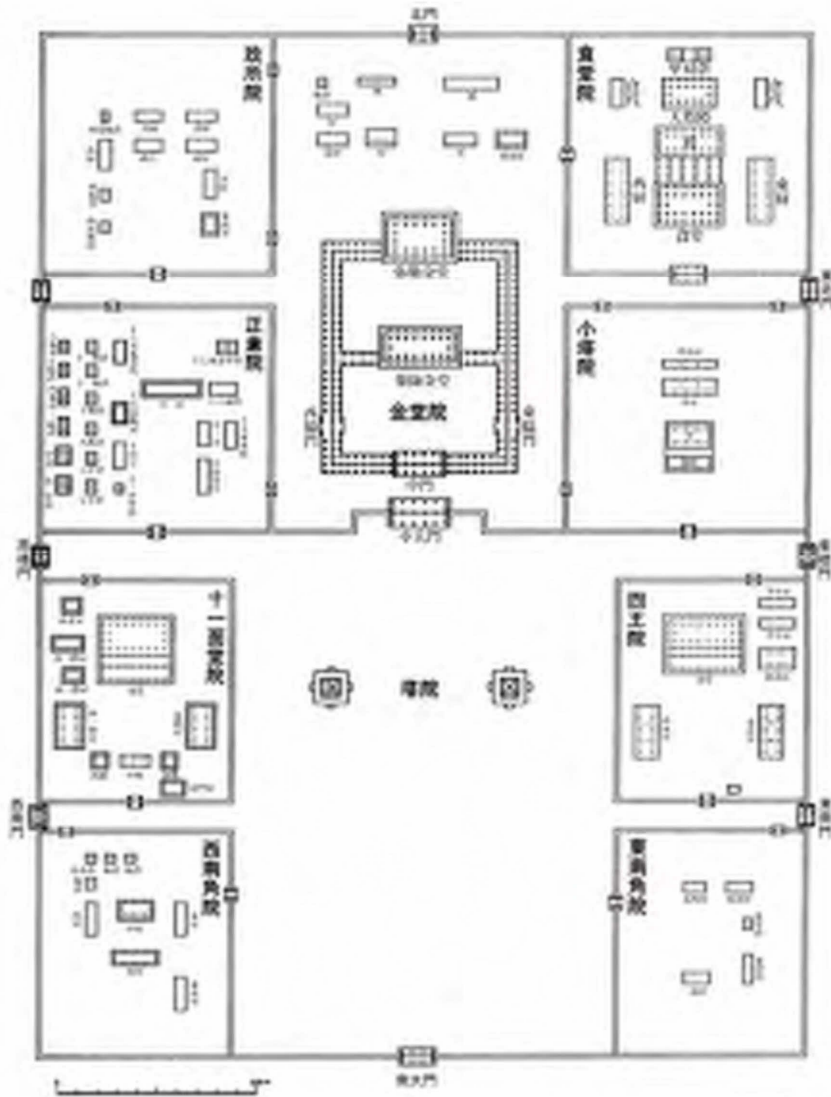
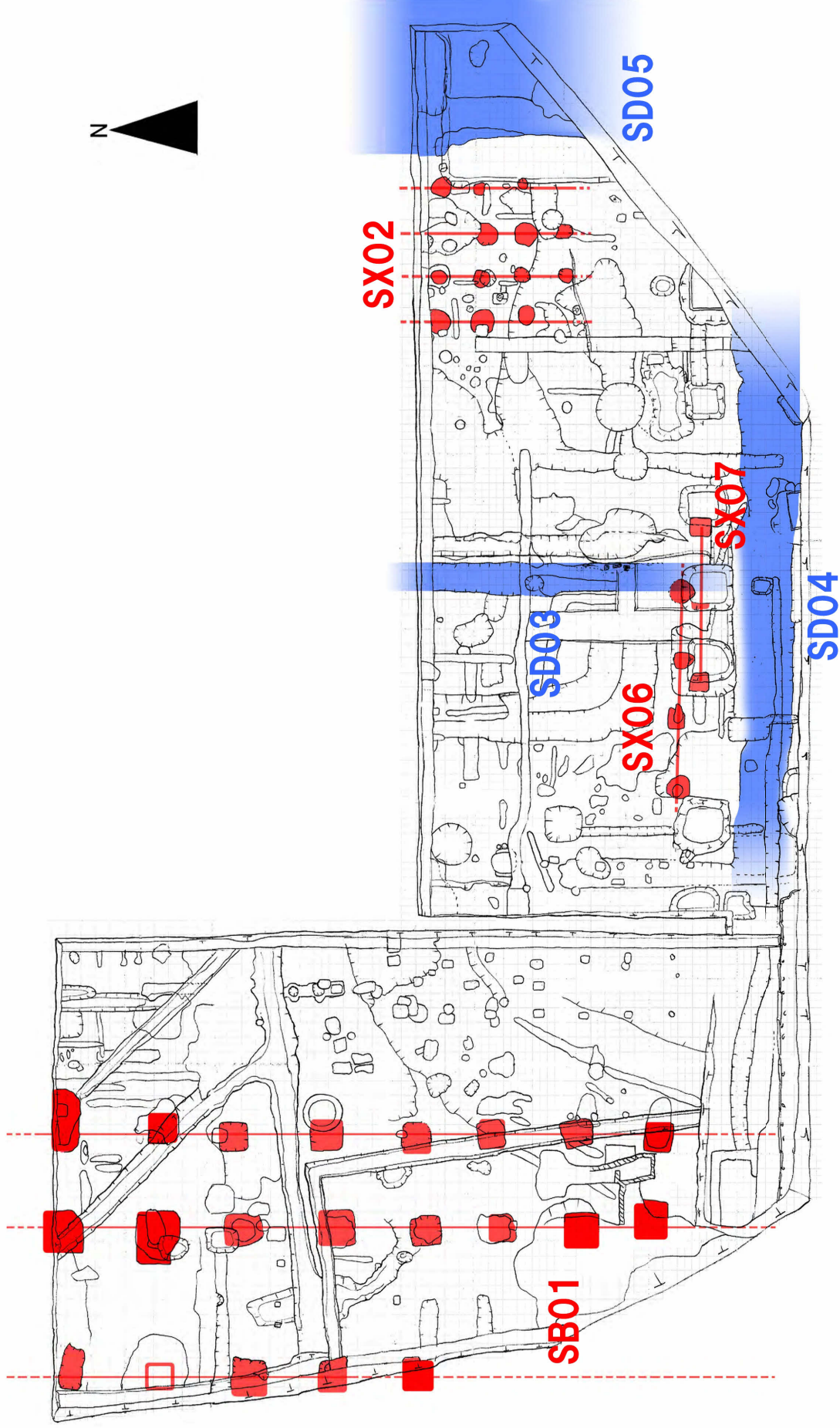


図2. 西大寺建物配置図

奈良国立文化財研究所1993『西陸寺発掘調査報告書』より一部改変



平城第 404 次調査 遺構平面図 1:200